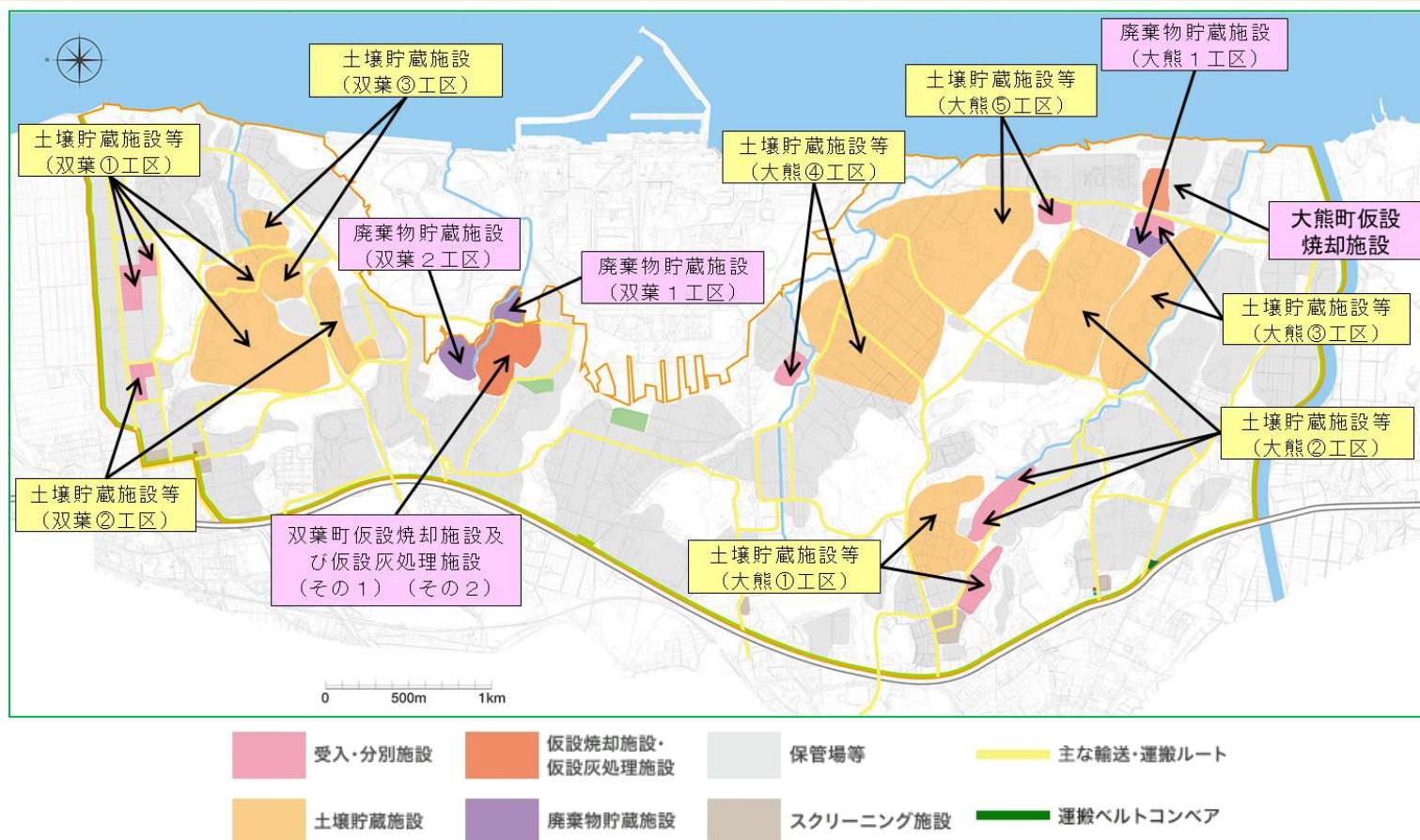


除去土壌等の中間貯蔵施設とは？

- 中間貯蔵施設とは、福島県内の除染により発生した除去土壌や廃棄物、10万Bq/kgを超える焼却灰等について、中間貯蔵開始後30年以内の県外最終処分までの間、安全かつ集中的に管理・保管するための施設。
- 中間貯蔵施設区域は約1,600ha(渋谷区とほぼ同じ面積)。大変重いご決断で大熊町・双葉町に受け入れを容認いただいた。引き続き、安全第一を旨として、中間貯蔵施設事業に取り組む。
- 福島県内の除染で発生した除去土壌等(帰還困難区域を含む。)について、2023年12月末時点で、累積約1,375万m³を中間貯蔵施設へ搬入。



中間貯蔵施設の整備

受入・分別施設(大熊①工区)



土壤貯蔵施設(双葉①工区)



Figure 1: Schematic diagram of the waste management process for contaminated soil.

The diagram illustrates two scenarios for handling contaminated soil based on its radioactivity concentration.

Top Scenario (Soil with $8,000 \text{ Bq/kg}$ or higher):

- ベルトコンベア (Belt Conveyor):** Transports soil from the storage area to the dumping yard.
- 貯蔵地 (Storage Area):** Initial location of the contaminated soil.
- ダンピングヤード (Dumping Yard):** Area where soil is dumped.
- 運搬車両 (Transport Vehicle):** Vehicle used to transport soil to the dumping yard.
- ダンピング (Dumping):** The act of dumping soil.
- 処理をした上で排水 (Drainage after treatment):** System for managing water after treatment.
- 除去土壌 (Removed Soil):** Area where soil is removed.
- 遮水工 (Waterproofing Work):** Structure to prevent water leakage.
- 保有水等集排水管 (Water Collection and Drainage Pipe):** Pipe for collecting and draining water.

Bottom Scenario (Soil with $8,000 \text{ Bq/kg}$ or lower):

- 投入車両 (Input Vehicle):** Vehicle used to transport soil directly to the storage area.
- 貯蔵地 (Storage Area):** Final location of the soil.
- ダンピング (Dumping):** The act of dumping soil.
- 処理をした上で排水 (Drainage after treatment):** System for managing water after treatment.
- 除去土壌 (Removed Soil):** Area where soil is removed.
- 遮水工 (Waterproofing Work):** Structure to prevent water leakage.
- 保有水等集排水管 (Water Collection and Drainage Pipe):** Pipe for collecting and draining water.

※ダンピングヤードにおいてダンピングする運搬車両が退出する際は、周辺への汚染防止のため、荷台後部の清掃を実施する。

※貯蔵地を走行する投入車両が公道に退出する際は、汚染検査又はタイヤ洗浄を実施する。

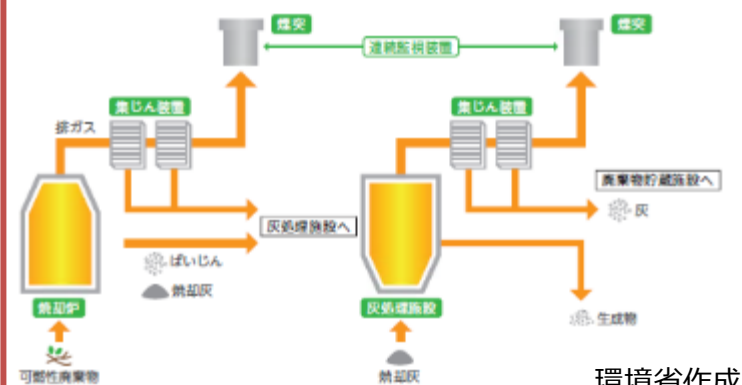
双葉町仮設焼却施設及び仮設灰処理施設(その1業務)



廃棄物貯蔵施設(双葉1工区)



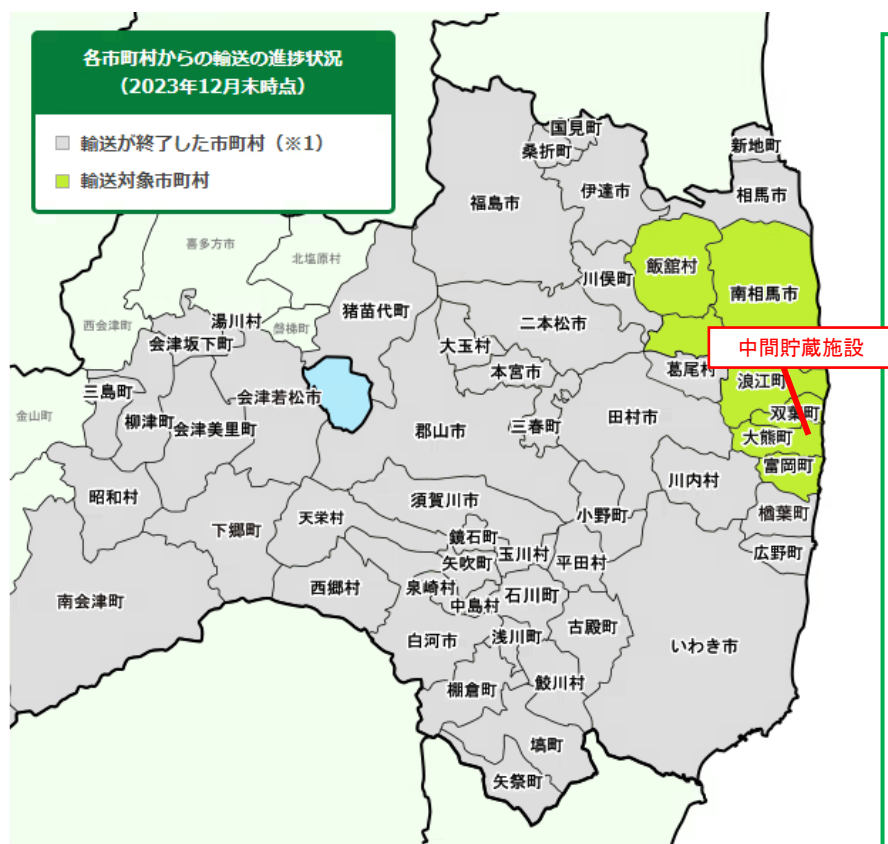
双葉町仮設焼却施設及び仮設灰処理施設



中間貯蔵施設

除去土壌等の輸送

- 除去土壌等の仮置場からの中間貯蔵施設への輸送は10tダンプトラックを基本に実施
- 輸送は2014年度末より開始。2023年度は11市町村からの輸送を実施するとともに、特定復興再生拠点区域等において発生した除去土壌等の搬入を進める。また、仮置場を介さずに輸送を行うための方法を検討する。
- 輸送対象物の全数管理、輸送車両の運行管理、環境モニタリング等を行い、安全かつ確実な輸送を実施中
- これまでに約1,375万m³の除去土壌等を中間貯蔵施設に輸送（2023年12月末時点）



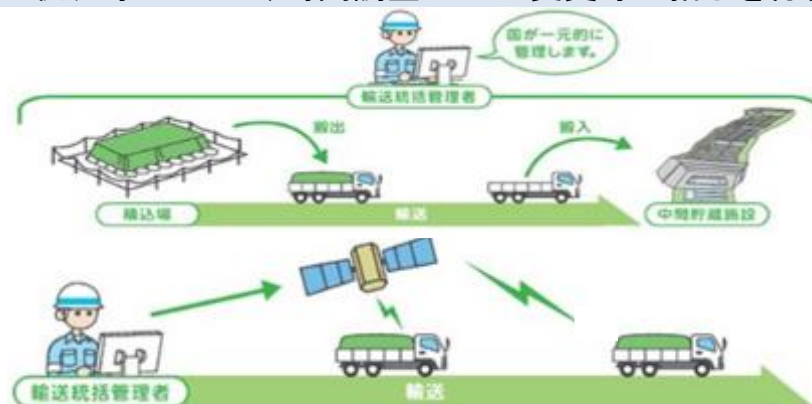
輸送の管理・監視について

輸送対象物の全数管理

- 仮置場等から搬出する輸送対象物は、保管容器ごとに一元的に全数管理をしている

輸送車両の運行管理

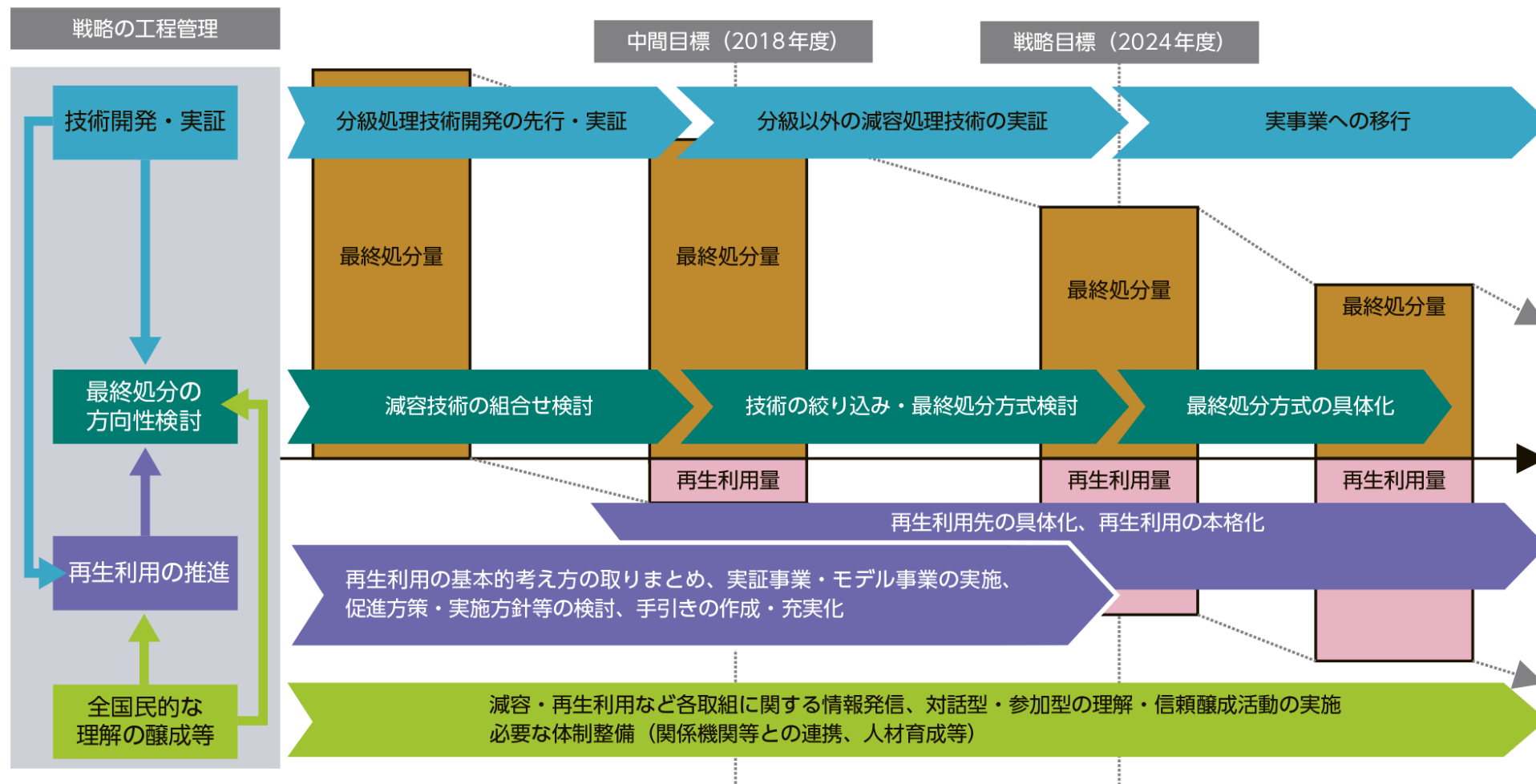
- 交通GPS等を活用し、輸送車両の位置情報等をリアルタイムに把握
- 状況等に応じて、時間調整・ルート変更等の指示を行う



環境省作成

中間貯蔵施設

福島県外最終処分と減容・再生利用技術開発戦略



資料：環境省

（図）「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略」の概要

環境省作成

中間貯蔵施設 再生資材化した除去土壌の安全な利用に係る基本的考え方

- 2016年6月、放射線に関する安全性の確保を大前提に、減容処理等を行った上で除去土壌を再生資材化し、**適切な管理の下での利用**を実現するための『基本的考え方』を公表。
- 基本的考え方を指針として、実証事業・モデル事業等を実施し、放射線に関する安全性の確認や具体的な管理方法の検証を行うとともに、全国民的な理解の醸成に取り組み、再生利用の本格化に向けた環境整備を進める。

用途の限定

- ✓ 管理主体や責任体制が明確となっている公共事業等であって、長期間人為的な形質変更が想定されない盛土等の構造基盤

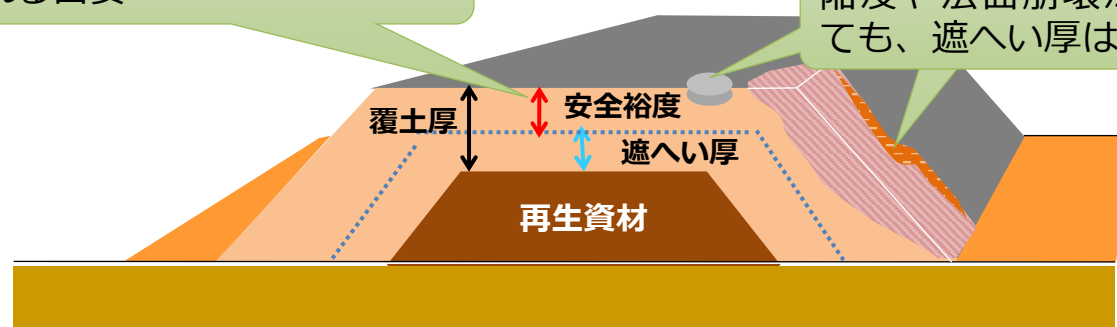
例) 防潮堤、海岸防災林、道路等の盛土材の構造基盤の部材、廃棄物処分場の覆土材、土地造成における埋立柱・充填材、農地（園芸作物・資源作物）等

適切な管理

- ✓ 施工中の追加被ばく線量を1 mSv/年を超えないように制限するための放射能濃度を設定
- ✓ 再生利用可能濃度は8,000Bq/kg以下を原則とし、用途ごとに設定
- ✓ 覆土等の遮へい、飛散・流出の防止、記録の作成・保管等

土木構造物としての修復措置がなされる目安

陥没や法面崩壊が生じても、遮へい厚は確保



覆土厚は、土木構造物としての通常の補修がなされる場合でも、被ばくを制限するための遮へい厚が確保されるよう設計。

環境省作成